３ 「高校進学」の不安・心配への対応

発達特性のある方の高校進学で「どうやって学校を選べばいいかわからない」、入学後に「学校を辞めたい、辞めさせたくない」という本人や親御さんの悩みを聞くことがあります。

中学生の時に「本人の思いや状況をよく聞き取り、多様な進学先の情報が提供されていれば、見通しが立ち納得の進路選択ができたかもしれない」、希望した高校で「相談できる人や通級指導、放課後デイサービス、医療等とつながり適切な支援を受けられていたら、学校生活で不適応を起こさず、不登校などにはならなかったかもしれない」といった親御さんの悔やむ声を聞くこともあります。

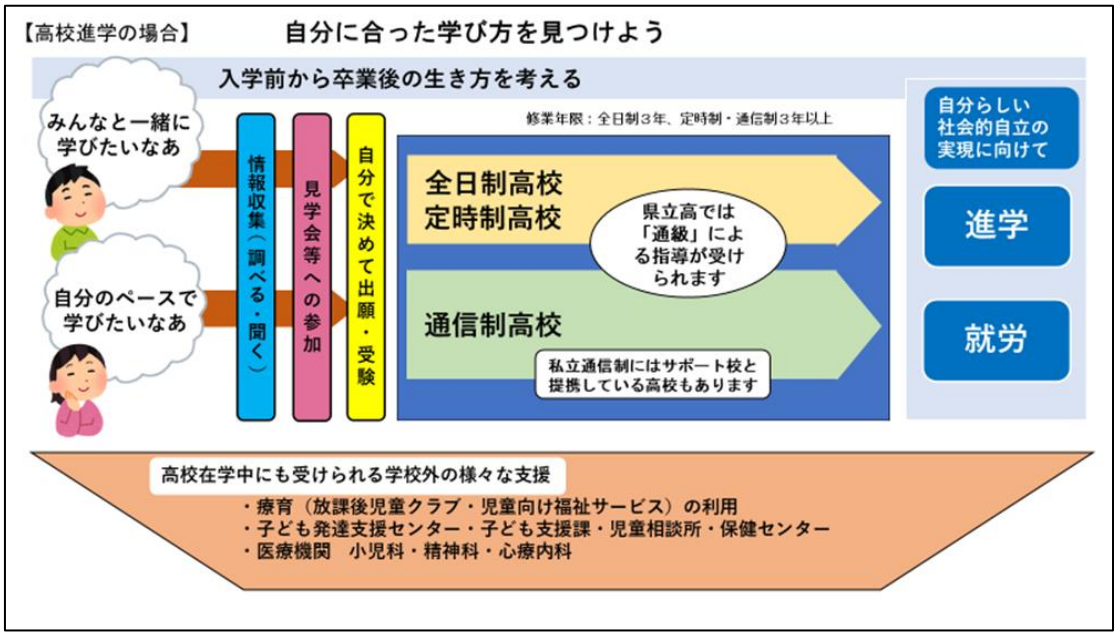
ここでは、自分に合った学び方を考えるための支援情報を紹介します。

（１）進路決定まで

中学卒業後の進路は、選択肢が大きく広がります。高校進学や卒業後の将来について家族で時間をかけて考えて、将来への道筋を話し合いながら、本人が見通しを持てるようにすることが大切です。

高校進学では、本人の特性（思春期になって発達の特性が現れる場合もある）や家庭・学校生活の状況を見ながら、希望する高校や学校外で受けられる様々な支援情報を集めます。

そして、どのような学校生活を送りたいのか、どんな学び方を選ぶのか、本人の希望を踏まえた進学の理由と家族の支援等を話し合い、本人も納得できる進路決定ができるようにすることが望ましいです。



■ 高校選びのアドバイス

- 本人が自分の将来について考えることは大切です。中学１年生のときから、キャリア学習や先生との面談の機会を利用しながら、家族で話し合い、子どもと一緒に考えましょう。
- 担任の先生等は高校選択の様々な情報を持っているので、相談してアドバイスをもらいましょう。
- 高校には全日制・定時制・通信制があります。本人の生活や学習スタイルから合う高校を考えましょう。
- 興味や将来を考えたときに高校で学んでおきたいことを考えて、高校や学科を選べるようにしましょう。
- 学校説明会や学校案内、学校のホームページ等で情報を収集しましょう。学校によっては文化祭などを公開している場合もあります。そうした機会に学校の様子を直接見たり感じたりすることができます。
- 実際に高校に通っている先輩の話を聞いてみましょう。高校生活の様子について知ることができます。
- 通学方法を確認してみましょう。自宅から離れた場所にある高校への進学を希望する場合は、電車やバス、自転車等、想定される方法で通学が可能か確認してみましょう。
- 県立高では「通級による指導」が受けられます。中学校等の先生に相談しておくとよいと思います。

【県内の公立高校、私立高校の情報】　https://hsg.gsn.ed.jp/

（２）県立高校における支援

担任の先生や養護教諭など身近な先生に相談してください。県内全ての県立高校（全日制・定時制・通信制）・中等教育学校で定期的に勤務しているスクールカウンセラーも、必要に応じて生徒や保護者の不安や悩みの相談にのります。気軽に相談してみてください。

また、スクールソーシャルワーカーに来校してもらい、生活環境の改善に向けた福祉サービスなどの助言を受けることもできます。

①　「通級による指導」

大部分の授業を在籍する高校で受けながら障害に応じた特別な指導「自立活動」を受けることができます。

自立活動とは、生徒の実態に応じて設定された内容で、自立と社会参加を目指し学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するための活動です。

【対象者】

県立高校に在籍、自閉症、学習障害（ＬＤ）注意欠陥多動性障害（ＡＤＨＤ）のある生徒のうち、「自立活動」の指導が必要であると校長が認めた者。全日制、定時制、通信制は問いません。

【指導を受ける場所・時間】

サテライト学習室６カ所・放課後（各教育事務所と総合教育センター）県立高校９校には通級指導教室を設置各担当教諭（高等特別支援学校在籍）が巡回指導を行います。

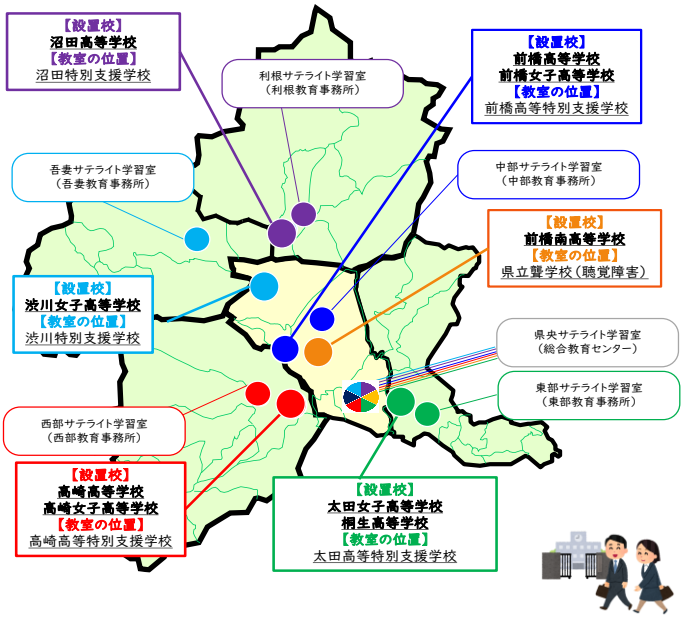
＜ADHD の生徒に対する通級の指導例＞

コミュニケーションや集団行動が苦手で、周囲と関わりたいが、関わり方や会話の仕方が分からない生徒に対して、観点別に自分の会話を振り返り評価する指導を行いました。例えば、会話のルールや適切な行い方について、そのポイントを具体的に伝えるようにしました。

その結果、本人が会話を振り返り、自己評価をしながら理解することができるようになりました。

高校通級指導教室設置校

県内の高等学校9校に設置し、6校の県立特別支援学校を拠点として、生徒が在籍する高等学校における巡回による指導も行っています。また、県内6カ所のサテライト学習室でも通級による指導を受けることができます。



令和４年度の利用者は７８名でした

②　生徒の特性に配慮した学校への支援体制（SC、専門アドバイザーの派遣）

県では、特別な教育的支援を必要とする幼児・児童生徒が在籍する幼保・学校等へのサポート事業を実施しています。５つの教育事務所に配置された特別支援教育専門相談員、各県立特別支援学校の専門アドバイザーが園・学校からの要請に基づき直接訪問して、教員等の相談に応じています。

高等特別支援学校に配置されている専門アドバイザーは全員、発達障害を含めた全障害について相談に応じます。

＜高校における専門アドバイザーによる相談の事例＞

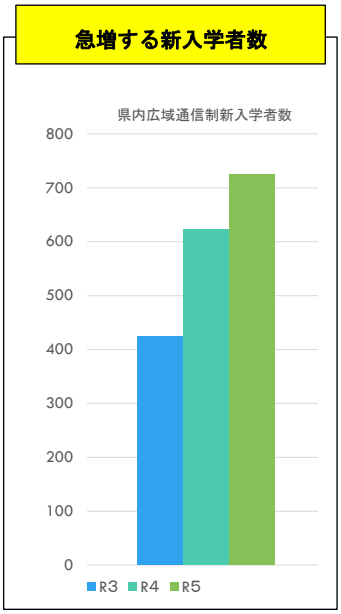
- 期日までに提出物が出せない生徒に、どのように対応したらよいか。
- 興味のあることに気をとられてしまい、集中して話を聞くことができない生徒にどのような支援が考えられるか。
- 机やロッカーの中を片付けることができない生徒に、どのように支援したらよいか。
- 自分の考えているとおりに物事が進まないと不安を感じる生徒にどのように配慮したらよいか。
- 相手の気持ちの理解ができず、トラブルになってしまう生徒に、どのように対応したらよいか。

（３）私立通信制（広域通信制）高校の特徴

近年、多様な学びの場として、不登校や中退者だけでなくスポーツや芸術など多様な活動に取り組む生徒の広域通信制高校（入学できる都道府県が３カ所以上）への関心が高まっています。群馬県内でも年々進学する生徒が増えています。

県内には、広域通信制高校の実施校（本校）や分校（〇〇キャンパス）、協力校（実施校が行う面接指導・試験等に協力する他の学校）などのサテライト施設、レポート作成等を支援するサポート校があります。

卒業に必要な単位修得には、①レポート（学習課題）提出・合格、②スクーリング（面接指導）出席、③テスト（単位認定試験）合格が必要で、自学自習を基本としていますが、自宅での学習だけでなく全日制高校のように毎日通学することができる「通学型スタイル」をとっている学校や、自宅にいながら「インターネットを活用して学ぶスタイル」の学校等、通信制課程の特長を最大限に活用し、自分の学び方・やりたいことに合わせた形で、勉強をすすめることができます。



※新入学、転・編入学者数の動向（県子ども・若者支援協議会調査）
県内にあるサテライト施設、サポート校の協力を得て調査を実施。
https://www.pref.gunma.jp/page/3661.html

ここでは「群馬県私立通信制高校連絡協議会（注）」の協力で、発達特性のある生徒が自分に合った学びのスタイルを選択する際に、どのような視点で各校の情報を収集したら良いかの例を紹介します。

具体的な対応については、各校の個別相談や授業参観（学校見学）で確認してください。

（注）県内にあるサテライト施設を持つ広域通信制高校で、多様な学び方を正しく伝えるために、連絡協議会を組織しました。（２０１９年設立）

【不安・心配のある生徒への対応】

抱える不安・心配は人により異なります。個別に配慮して多様な学び方で対応します。例えば、

ア　毎日の通学が不安。負担
イ　学習への集中が持続できない
ウ　大人数（対人）が苦手
エ　他者との関わりがうまくできない
オ　不登校だったので学力不足

ア　最小限の登校で可、自宅で自学自習
イ　学習の様子に課題がある生徒に対する日常的な働きかけや支援、興味関心を高めるコースを設定、選択（履修や学習状況のきめ細かな把握・管理）
ウ　少人数指導や個別指導
エ　特別活動等による集団生活や人間関係づくり、コミュニケーションスキル等の育成
オ　義務教育段階における学習内容、基礎的な知識・技能の定着のための指導

■　私立通信制高校の情報収集のアドバイス

Ｑ１　個人の特性にあわせた対応は、どのような視点で学校の情報を集めたら良いでしょうか？

Ａ　レポート提出やスクーリング参加、試験時にどのような対応ができているかです。

例えば、

・最近のレポート提出はデジタル対応になっていますが、端末機器の準備の必要性や、特性に合わせた対応があるか。
・スクーリング時の授業が一斉指導の場合、教室に入れない生徒や欠席をしてしまった時にどのような対応をしているか。
・試験については、実施方法（時間や受け方）など、生徒の状況を配慮した受験が可能か。

なお、どの学校でも決められた規定の中で、個別で最適な学習計画をどこまで提示できるかを確認する必要があると思います。

Ｑ２　生徒の気持ちに寄り添った学習提案やモチベーションの維持をしてくれますか？

Ａ　学校訪問で対応された先生だけではなく、日常関わってくれる先生が発達特性について、どの程度の理解があるのかがポイントです。

例えば、

・発達特性への理解と柔軟な対応方法が必要だということを理解されて、それにあわせた提案や個別支援の対応ができるかどうか。

・心理職や専門職が日常的に生徒の心のサポートをしてくれるかどうか、生徒間の人間関係の構築で先生がうまくできるように橋渡しをしてくれているかどうか、保護者面談を定期的に実施してくれているかどうか、保護者の不安などを一緒になって考えてくれる場があるかどうか……。

Q3　発達特性の視点から通信制高校で学ぶメリットをどのように見たらよいでしょうか？

Ａ　単に高校卒業を目指すだけでなく、いろいろな体験が出来ることがメリットの一つです。

例えば、

・放課後のサークル活動が頻繁に行われている。
（余暇の過ごし方を、高校時代に身につけて卒業してもらいたい）。

・学校の活動が生徒に社会性を身につけさせたり、将来の進路を拓く活動をしているかどうか。

・学校行事や校外活動、ボランティア活動などで社会とつながる機会をたくさん用意している。

・卒業後の進路先が、その毎日通学するキャンパスの実績かどうか？（広域通信制高校の場合、全国の実績が表記されることもあるので、通学するキャンパスの実績をみることが大切。）
進路選択をしていくときに、担任や学校としてどこまで、その生徒の進路を一緒になって拓いてくれるのか、特性があることを考慮に入れながらの進路提案をしてくれているかどうかです。

【私立通信制　Ｋ高校における取組事例】

①学習支援

学習支援体制は、担任の先生がついて、学習計画を生徒と一緒に決めていきます。学力的に不足している部分がある場合には、レポート学習以外にも、基礎学習をICT ツールを使って、個別最適化された学習を行っていきます。レポートの進捗状況は本人だけの管理ではなく、保護者の方にも定期的に報告をしていきます。

②進路支援

進路に関しては、大学進学から専門学校進学、高卒求人を利用しての就職、障がい者枠での就職、各福祉サービスへの連携など、生徒の特性にあわせて提案をしていきます。

進路を決めていくための、生徒の学業以外のところについては、放課後等デイサービスの支援員さんとの連携や、医療機関などとも連携をして、その生徒がいきいきと将来生きていける方法や進路先を検討していきます。

学校での様子などを記録にまとめ、ケース会議を実施したり、医療機関に生徒保護者と担任が一緒に受診したりすることもあります。医療と学校、福祉が同じ方向を向いていくようにしていきます。生徒本人が社会に適応していく際に「苦手」とする場面を、どのようにクリアしていくのかの手立てを一緒になって考えていきます。必要であれば、行政・福祉機関に一緒に出向き、情報を共有していくこともあります。その生徒一人ひとりのニーズにあわせて対応をしていきます。

③社会的自立に向けた心理的サポート

生活アンケートをとり、面談時の資料として活用し、生活習慣の確立について考えています。
日常すべての行動がコミュニケーションという考えから、意思表示ができる方法を考えていきます。緘黙な生徒さんの場合は、メモ用紙の活用や首振りのみでの会話など、本人が安心して気持ちを他人に伝えていく手立てを作っていきます。

子ども・若者の自立支援ガイド【学び編】

小学生から中学生、そして高校生へ、学校の「学びの環境」も大きく変化し、部活動や委員会活動、さまざまな社会活動への参加の機会も増え、多様な人間関係が広がっていきます。このガイドは、「不安」を抱えた若者が、周りの人の支援を受けながらどのように一歩前に進んでいったか、本人や保護者の体験談をまとめています。

https://www.pref.gunma.jp/page/3704.html